

奥州市中心市街地まちづくりニュース

新聞基
刊報

賑わいあふれるまちづくりを目指して…

奥州市中心市街地活性化シンポジウム を開催

平成 21 年 11 月 7 日 (土)、奥州商工会議所大ホールにおいて、奥州市中心市街地活性化シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、今年度奥州商工会議所が実施している中心市街地コンセンサス形成事業の一環として、専門家を招へいた研修と本事業の取組みを市民に報告する場として開催したもので、当日は、商店主、市民等約 150 人が来場されました。



街なか市民会議「提言書」報告



6 月から 13 回の会議を重ね取りまとめた「街なか市民会議提言書」の内容について、街なか市民会議委員の代表 2 人から、「中心市街地の顔としての商業の振興」、「新たな交流を生み出す観光との連携」、「人が住みたくなる居住環境の充実」、そしてこれらを総合的に活かすための「賑わいの創出」という 4 つの柱ごとに活性化の方向性や具体的な取組み等を報告しました。
※ 「街なか市民会議提言書」は、10 月 6 日の奥州市中心市街地活性化協議会幹事会、同月 14 日の同協議会において、原案通り承認され、同月 19 日に同協議会会長名で奥州市長に提出いたしました。

東北学院大学教養学部岩動ゼミによるフィールド調査実施報告

東北学院大学教養学部地域構想学科岩動ゼミに所属する学生が、今年の 8 月、奥州市の水沢区、江刺区を対象に実施したフィールド調査の報告を行いました。

報告では、水沢の中心市街地の各商店街の現状を分析し、そこから今後に望むこととして、「若者が来る街」、「昼間に活気のある街」、「専門店の良さをアピールすべき」、「学生を集客するための施設整備」、「イベントや祭の PR」の 5 点が提案されました。

“よそ者“であり”若者“である学生の視点でまとめられた提案は、大変貴重なものであり、中心市街地活性化基本計画の策定や今後のまちづくりにおいて、活かしていきたいと考えています。



基調講演『地域資源を活かしたまちづくり』

講師：(株)JTB東北地域貢献推進部長 阿部昌孝氏

- ① 国内宿泊旅行者は減少傾向にあるが、潜在的な需要はあるので、旅行のきっかけ作りが必要である。
- ② 昔の観光は、おいしい豪華な食事、豪華な旅館に泊まって、温泉入ったりする「非日常」のスタイルが多かったが、今はその地域の歴史や食事などの「異日常」を体験するスタイルに変わってきている。
- ③ 雄大な自然、桜、紅葉、名所旧跡などの観光施設、温泉、祭だけではなく、地域の暮らしをいかに情報発信していくか、資源を掘り起こしてプログラムをつくり上げていくかというのが非常に大事。そして、中心市街地といかに連携させるかという視点で取り組むことで、地域にお金が落とされ、地域経済が活性化されていく。
- ④ 通過型観光ではなく、様々な体験メニューを提供し、滞在できる、滞在したいと思わせるような仕掛けを作っていくべき。

江刺区の自律的まちづくりモデル創出支援事業アドバイザーも務められている阿部さんのお話から、今まで気づけなかった“資源”が奥州市内あちこちにあること、そして、それを市民みんなで掘り起こし、観光資源として、ひいては、まちづくりに活かしていくことが肝要であることを認識させられました。現在策定中の中心市街地活性化基本計画で掲げる基本コンセプトを、「歴史」、「文化」、「観光」、「交流」といった視点から作り直そうと検討しているこのタイミングでいただいたご講演は、大変貴重なものとなりました。



シンポジウム『活性化のためにできること』

コーディネーターに東北学院大学教養学部岩動志乃夫教授、パネリストには街なか市民会議委員3人と岩動ゼミの学生4人が参加しました。発表された主な意見は以下のとおりです。

- 中心市街地に無目的に立ち寄れる場が必要
 - 中心市街地の活性化を商業だけでなく事業所の誘致を含めて考えてはどうか
 - 人任せでは活性化は実現できない
 - 奥州市には鑄物などの資源が豊富にあるがうまく活かされていない
 - B級グルメに代表されるような奥州市らしいグルメが必要
 - メイプルを水沢区の商業地のランドマークタワーとして機能させるべき
 - 水沢の街なかに残る歴史的、文化的な資源を有効に活用し多くの人々の交流の場としていくべき
 - 奥州市のキャッチフレーズ(“ぎゅっとして奥州”、“Oh!旬な街奥州”、“アテルイ街奥州”の3つを提案)を市民みんなで考え、それをキーワードとして全国に情報発信していくべき
- 最後に、岩動教授が、都市のシンボル論には、時間軸から見た①遺産(歴史)系シンボル＝ふるさと性、②現代演出系シンボル＝にぎわい性と、空間軸から見た③自然風土系シンボル＝風土性、④都市(人間)理念系シンボル＝プライド性という4つの視点があり、奥州市には黒石寺など(ふるさと性)、メイプルなど(にぎわい性)、北上川など(風土性)、アテルイや3先人など(プライド性)といった立派な地域資源があるので、これを活かしたまちづくりを考えていくべきと総括されました。



発行 奥州商工会議所 (〒023-0818 奥州市水沢区字東町4番地)

電話 0197-24-3141

FAX 0197-24-3148

【市民・事業者・行政等全ての主体が協働して、中心市街地を活性化しましょう】



2009年12月15日